

平成30年度 国見小学校学校評価

観点	具体項目	単年度目標	具体的対策	評価者	数値目標等(努力・成果)	B評価	部	担当	評価	7月	12月	成果と課題対応
確かな学力	思考力・判断力・表現力の育成	対話的活動で学びを深める授業の工夫	ねらいや工夫した点を明確にし、その評価をする授業を実践する。	職員	本校は、テーマに沿った授業研究会ができた。	100%	研究部	家接	A	100%	100%	○学習規律、学び合い、基礎の定着の三本柱にて学力向上の取り組みが実践できている。 □学習ルールを共通理解する場を設定したい。
				児童	私は授業で、自分の考え方を発表している。	80%			B	84%	86%	
	学習ルールの確立	学習ルールの共通理解と実践	実態や状況に応じた学習ルールを適時確認する場を設定する。	職員	本校は、学習ルールを確認する場が持てた。	80%			B	88%	88%	
				職員	本校は、子どもは学習ルールが身につけている。	80%			C	38%	70%	
	基礎・基本の定着	一人一人の到達度を把握した指導の実践	確認問題・ノート等で到達度を把握する。 満点をとる漢字・計算テストを実施する。 各児童の分からないところを補充する。 調査にて成果を検証する。	職員	私は、机間巡回やノートで児童の到達度や考え方を把握した。	80%			B	75%	88%	
				職員	私は、漢字・計算テストで満点がとれるように配慮した。	80%			A	100%	100%	
				児童	先生は、分からないところを教えてくれる。	90%			B	97%	90%	
達成率	算教科CRT調査にて、標準点を越える学年の割合	4/6										
豊かな心・健やかな体	夢や目標に努力を続ける、自立する力の育成	キャリア教育の推進	授業や学校行事、学級経営で、目標を設定する場を設定し、その支援をする。 青年会議所や公民館などの力を借りて、より具体的に夢や職業を考える場を設定する。	児童	私は、目標に向かって頑張っている。	80%	各分掌	高井	B	84%	81%	○キャリア教育等の成果で、児童は目標や将来の夢を持って生活している。 □伝える力は備わってきているが、他者の考えから自分の考えを広げるコミュニケーション力をつけたい。 □学校教育全体で正義感とそのリーダーシップを育てたい。
				職員	私は、児童に目標を持たせ、その支援ができた。	90%			C	63%	85%	
				児童	私は、なりたい人やなりたい職業がある。	80%			A	94%	100%	
				職員	学校は、夢や将来の職業を考える教育を実践できた。	80%			A	100%	100%	
	リーダーシップとフォローアップの育成	相手を尊重する心や態度の育成	児童の相手の呼び方や言葉遣いなど、ふさわしい言動を指導をする。 リーダーシップとフォローアップを育てる創り活動を実践する。	児童	私は、他人にやさしくして、ていねいな言葉遣いをしている。	80%			B	100%	86%	
				児童	私は、いじめを見たらとめることができる。	90%			D	78%	64%	
				職員	本校は、上級生と下級生が協力し、お互い高め合っている。	80%			A	100%	100%	
				保護者	わが子は、学校生活を楽しくしており、友人関係も良好である。	80%			A	94%	90%	
	強い意志による健康・体力の向上	チャレンジする運動の推進 自分の体は自分で守る意識の向上	目標記録を設定した体育、業間運動を実践する。 普段の生活でどのように自分の体を守るか、具体的に理解させる。	児童	自分は、できない運動でも、強い心で頑張っている。	80%			A	97%	92%	
				保護者	本校は、子どもの強い心と体を育てようとしている。	80%			A	82%	92%	
				職員	本校は、自分の体は自分で守る意識が身につけている。	80%			A	100%	100%	
				児童	自分は、できない運動でも、強い心で頑張っている。	80%			A	97%	92%	
				保護者	本校は、子どもの強い心と体を育てようとしている。	80%			A	82%	92%	
協働する組織	共通理解による学校教育目標の実現	職員の意思疎通	時と場に応じた連絡や会議をする。	職員	本校は、共通理解が図られ、協働する組織作りがなされている。	80%	総務部	校長 教頭 教務	A	100%	100%	○職員の資質向上や気になる児童の支援など、職員間の連携ができています。 □自立した児童の姿を様々な場で地域や保護者に見せたい。 □児童と国見地区との関わりをさらに増やしたい。
			気になる児童支援の共通理解を図る。	職員	本校は、児童支援の共通理解を図ることができている。	80%			A	100%	100%	
			学校行事をふり返る場を設定する。	職員	本校は、PDCAによる改善サイクルができています。	80%			A	87%	100%	
		育てたい児童・生徒像への実践	学校行事や学級経営において、育てたい姿を意識した計画を立てる。	職員	私は、校務分掌において、自立など学校のめざす子ども像への取り組みができた。	80%			A	75%	100%	
			児童と国見地区への関わり方を工夫する。	児童	私は、国見地区が好きである。	90%			A	100%	100%	
			保護者や地域に自立した姿を見せる。	保護者	本校の授業参観等で、児童の自立した姿があった。	80%			C	94%	81%	
		児童理解の充実	気になる子を、終礼で共通理解をする。	職員	本校は、児童の実態を把握し、配慮した対応ができています。	80%			C	67%	78%	
			資質向上を図る実践	職員	本校は、職員の資質向上に向けた取り組みがなされている。	90%			A	100%	100%	
信頼される学校	家庭・地域との協働体制の構築	地域・保護者との対話	地域や保護者の願いを受け止めるとともに、学校の願いも伝える場を設定する。 保護者の意見について話し合う場を持つ。	職員	本校は、保護者の評価を受け止め、学校改善に結び付けた。	80%	校長 教頭	校長 教頭	A	100%	100%	○学校は地域や保護者との関係づくりに配慮をしている。 □保護者や地域に学校の説明責任をより果たすことで学校理解を進めたい。 □保護者との対話をより充実させたい。
				保護者	私は、子どものことで気軽に相談できる。	70%			B	69%	78%	
				保護者	本校は、子どもの一人一人を大切に温かく指導している。	80%			A	82%	91%	
				職員	本校は、職員(学校)と保護者との対話ができている。	70%			C	54%	69%	
				職員	本校は、保護者と対話をする場が持たれている。	80%			A	82%	100%	
				保護者	本校はお便り等で教育内容を適切に伝えている。	80%			A	89%	92%	
	学校理解の推進	学校の情報を公開することで、学校の努力している点や課題を理解してもらう。	保護者	本校は、児童の生活スケジュールは適切である。	90%	B			94%	85%		
			職員	本校は、地域と連携した教科や総合学習、学校行事を実践することができた。	80%	A			100%	100%		
			職員	本校は、地域と連携した教科や総合学習、学校行事を実践することができた。	80%	A			100%	100%		

*アンケートの評価 (A:よく当てはまる B:やや当てはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない) B評価=AとBの合計で「よい」とする百分率 【A・B】28 【C・D】7

